

中部地区 公民館だより

第174号

令和7年8月1日発行
上山市中部地区公民館
上山市十日町4番11号
TEL 673-2588
FAX 673-0379

自然の恵みに感謝

《一般講座 ミツバチ観察》

7月9日(水)、朝日町のハチ蜜の森キャンドル(工房)にミツバチの勉強に出かけました。工房で事前学習をしてから現地視察をする予定でしたが、雨の予報が出ていたため行程を変更し、初めに巣箱のある蜂場に向かいました。移動中に講師の安藤竜二さんから、付近の木々について、ハチが好む植物は花粉をたくさん運んでほしくて、少しずつ開花時期をずらしていると言う自然界の不思議な話をお聞きました。

蜂場ではネットテントに移動し、ミツバチの生態について詳しく教えていただきました。女王バチ、雄バチ、雌バチ、それぞれに役割があり、みんな一生懸命に働いているそうで、特に雄バチの一生については、ユーモアを交えて話していただきました。参加者からは「雄バチは人間の男性と一緒に肩身の狭い思いをしているんだな」との発言があり、爆笑する場面もありました。巣箱の端に付いていた1匹の雄バチが愛おしく思えました。講師の話聞き「ハチは怖い」という概念が少し変わったような気がしました。

工房では、蜜蝋キャンドルに火を灯し、ミツバチがもたらした森の光に癒されました。スライドショーを使って、蜜蝋、養蜂、農薬、森の話などがあり、大変興味深い学習ができました。

工房で研修中



ミツバチに刺激を与えないよう、静かにネットテントの中で注意事項の確認



ミツバチが騒がないように、そっと煙を吹きかけて、巣箱から巣板を取り出す講師



「女王バチがどれだか分かりますか？」の問いに、目を凝らして探す参加者



昼食の後は、道の駅おおえ「コラマガセ」に立ち寄り、地域材の「西山杉」をふんだんに活用した建物を見学しました。かつて最上川の舟運で栄えた歴史ある地域ならではの、小鵜飼船(こうかいぶね)の形をイメージした建物で、船底を模したデザインの天井を見上げ、「斬新な形で発想がすごいね」と感心しながら見聞を広げました。

フライングディスクと輪投げ大会

フライングディスクと輪投げ入賞者



6月25日(水)、生涯学習センターでフライングディスクと輪投げ大会を開催しました。

暑さを避けるため、6月開催にしたものの、今年も暑い中での大会になってしまいました。

フライングディスクも輪投げも経験者が多く、年に一度の大会を多くの方が楽しみにしてくれま

す。一投ごとに歓声が上がリ、珍プレー、好プレーの連続で競技をしている本人も周りの人も笑いが絶えない時間でした。



高齢者教室（はこべの会学習会③）スポーツ教室



7月11日(金)、高齢者教室(はこべの会)のスポーツ教室を開催しました。スポーツ教室では、モルックと輪投げを個人戦で競い合いました。

モルックは、優勝するにはあと何点必要かを計算してモルック棒を投げるので、集中力と簡単な計算が必要になってきます。輪投げも縦横斜め、ポールの数点の合計など簡単な計算が必要になります。「頭と体を使うゲームだね。今日は涼しいからちょうどいいね。」と笑いながら話してくれました。

山形ベンチャーズコンサート 歌声サロン



7月6日(日)、体育文化センター(エコーホール)にて山形ベンチャーズコンサートが開催されました。聴きに行った方から「初めて行ったけど楽しかった。」「知っている歌があって昔を思い出しました。」等、たくさんの方から感想をいただきました。

参加者募集

参加申込みは8月4日(月)午前9時から受付できます

スマホ教室 (スマホの基本)

日 時 8月18日(月)午前10時から正午
場 所 中部地区公民館 会議室1、2
講 師 ソフトバンク 株式会社
対 象 中部地区管内在住の方
募集人数 10人程度
参 加 費 無料

申込締切 8月13日(水)
持 ち 物 お持ちのスマホ
必要な方は飲み物
そ の 他 スマホをお持ちでない方も参加できます

女性だけのお茶会

公民館の利用者さんと公民館職員でゆっくりお話しませんか？

日頃、公民館を使用する際に思った事や感じたこと、中部地区管内の方でしたら公民館でやってみたい事業などを公民館職員に教えてください。むずかしい話は抜きにして、お茶を飲みながら楽しく情報交換しませんか？

少し、時間を作って遊びにきてください。お待ちしております。

日 時 9月3日(水)午前10時から正午
場 所 中部地区公民館 会議室1
対 象 公民館女性の利用者、中部地区管内在住の女性
募集人数 10人程度(事前に準備が必要なので申込みください)



8月の予定

3日(日) キッズオープンデー
8日(金) 第1回地域づくり委員会
18日(月) スマホ教室
20日(水) はこべの会 サロン
22日(金) 高齢者教室
(健康講座 腰痛と肩こり)

8月の百歳体操

7、21、28日

8月のサロン

8月のサロンは特に準備はいたしません。各自持ち寄り、自由に集まって楽しい時間を過ごしましょう。

日 時 8月20日(水)午前10時から
場 所 公民館 多目的ホール
申込は必要ありません

お知らせ

公民館の外壁塗装工事が始まります。期間は8月から10月を予定しています。ご迷惑をおかけしますが、ご理解ご協力をお願いいたします。



藤井松平氏シリーズ5. 松平信愛（1）「大坂加番中の客死」

さて、上山藩の「寛政の政変」を殿様の「瑕瑾（過誤）」の原因を、幕府の朱子学と上山藩主の陽明学との対立という観点で掘り下げましたが、結局明確には理解できませんでした。

今回のテーマは「大坂加番中の死」についてです。「公務災害死」といった方が正しいと思われます。諸藩は、命を削って幕府の屋台骨を支える役目を担わされていました。上山藩は、大坂加番の他に江戸城桜田門など諸門警衛などを担ったことが『御傳記』に見られません。

上山藩の大坂加番は、土岐代に頼行二回、頼隆二回、藤井松平代に初代信通四回、信将五回、信亨五回、信古二回、信愛三回、信行六回、信宝六回、信庸が一回、計三十二回を勤めています。この間、初代信通が享保七（1722）年9月（47才）、三代信将が宝暦十一（1761）年11月（41才）、六代信愛が文化元（1805）年3月（27才）で加番中に病死しているのです。

全国譜代藩主にも同じ例があります。伊勢菰野藩土方豊義は享保四（1719）年7月死去（31才）、上総飯野藩保科正寿が元文四（1739）年5月死去（36才）等です。

寛政八（1796）年9月に父信亨死去、兄の信古（信亨長男）が10月に父の後を追うように死去し、政変が治まらないなか弟信愛が寛政八年12月28日に家督を継ぎました。その信愛侯が三回目の加番中に亡くなったのです。上山藩主三人目の悲劇でした。実はその信愛の診察記録が報告されています。

藩主が勤役を下命されると重臣、家臣が食糧を携帯しますが、信愛大坂加番時の江戸詰め医師は奥山玄育でした。この奥山玄育先祖は初代信通が上山に入部する際に召し抱えられ、玄育（幼名幸之助）は御台所格12俵2人扶持でまず信亨侯に仕え、信亨の四男磐丸（後の信愛）の傳育（教育係で四書指南）、寛政六（1794）御匙代（側医師代理）、そして江戸藩邸医師となりました。文化元（1804）年のことですが、奥山玄育はかつて近侍した信愛侯が大坂加番に上る途中に病となったので追いかけて8月26日に東海道を大坂に向かいました。玄育らの治療の甲斐あって暮れには快方に向かいました。

この間のことですが、10月中頃、京の名医荻野元凱が大坂城の信愛を往診した記録があります。荻野元凱は平賀源内と親交があった漢方・蘭方の医師で、光格天

皇の皇太子の診療にもあたったという名医でした。伊勢久居藩藤堂高轟、彦根藩井伊直中の嫡男直清、丹波亀山藩松平信志、高知藩山内豊雍ら遠方諸藩の招請に応じて往診しています。上山藩は荻野元凱の往診のために村上七左衛門、ご用商人大和屋市右衛門を京まで向かわせ、帰りには武田弥二右衛門、鈴木左内、村上七右衛門が見送りする丁重さが記録されています。名医元凱と藩医らの治療の甲斐あって信愛侯の病いは快方に向かいました。が、しかし、年を越した翌文化元（1804）年3月27日に大坂加番勤役中に死去したのです。17才で家督を継いで9年、その間三回の大坂加番（寛政十、享和二、文化元）に就いて役目が終わる直前の26才の若さでした。

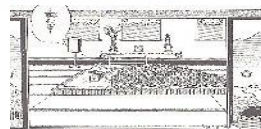
信愛侯の病は何だったのでしょうか。京の名医荻野元凱と藩医奥山玄育、遠藤、吉川三人は藩主の対診をおこないました。しかし、残念ながらその診療記録はありません。荻野元凱が診察した久居藩藤堂高轟侯で「脈数腹満羸瘦（動悸激しく激瘦せ）」「浮腫」、彦根藩井伊直清の症状は「全身浮腫」と記されています。

当時、病名不明故に京の名医が招請されたのですが、「浮腫」を勘案すると現在のエコノミー症候群なのでしょうか。信愛侯には、京の医師荻野元凱は「山椒、茴香、附子、黄芩、沢瀉、一粒金丹」などを京から取り寄せています。血栓溶解の漢方薬なのでしょうか（詳しい方に教示いただきたいと思います）。なぜ大坂加番を要望し、勤役に就いたのでしょうか。加番役高の四物成（四割）の手当が合力米一万八百石として支給されたことがその理由と思われます。お国、江戸藩邸の財政を補う苦しい事情がありました。

「寛政の政変」もやや落ちついた頃の大坂加番の勤役です。道中は上山から江戸まで7日、江戸から大坂まで13日の約850kmの長旅、ほぼ同じ姿勢で「籠」に乗るといふ苛酷な旅だったことが分かります。



大坂加番軍役行列（マンガ「日本の歴史」より）



病に伏す殿様（同）

※参考文献：市史資料「藤井御傳記」①、「上山藩大坂加番資料」③①、論文「上山藩医奥山玄育と荻野元凱」（「日本医学史誌」順天堂大学医学部深瀬泰旦教授）、他。